

2019 動研合宿 水生・両爬班

動物研究部では毎年泊り込みで離島へ行き、連日生物探査を行っています(コロナ禍により去年からは中止)

基本的に各々自由行動ですが水生・両爬班が行った活動を3つに分けて紹介します

林道流し

↓アカマタ

林道流しとは・・・

車で夜の森沿いの道路を走り、道路やその周辺に現れる生物を探す方法を指します。

特に両爬虫類を探す場合、雨が降った後は見つけられることが多くなるため林道流しに適していると言われています。



カエルがいればヘビもいる

ヘビの仲間にはカエルを捕食するものが多くいます。

雨が降ってカエルが普段隠れている場所から出て活動すると、それに伴ってヘビも餌となるカエルを求めて活動するようになります。

そのため雨の後はヘビもカエルと同じような場所で出会うことができます。



↑リュウキュウアオヘビ

雨の後に適している理由

両生類は哺乳類のように発達した肺を持たないため、粘液で皮膚を覆って皮膚呼吸をしています。

呼吸を助ける粘液が乾いてしまうと呼吸がしづらくなってしまうので、乾燥は多くの両生類にとって大敵です。

しかし雨の後なら両生類も乾燥を気にせず歩き回ようになり、見つけることが容易になります。

↓アマミイシカワガエル



夜探

夜探とは、夜の森をひたすらに練り歩き回り、夜行性の両爬虫類を探し回ることをいいます。

下の写真は2019年の合宿でとれたカエルとヘビで左からオオヒキガエル、ガラスヒバァ、アマミハナサキガエルでガラスヒバァとアマミハナサキガエルは奄美大島などの南西諸島にしか属していない両爬虫類です。



宿泊先である、奄美フォレストホテルキャンプ場がそもそも森林の中に存在しているため、敷地内である森林を散歩するだけでも、関東地方では見ることはできないような様々な生き物たちに出会えることができます。

2019 動研合宿 水生・両爬虫

調査方法:タイドプール



タイドプールとは？

「しおだまり」ともいい、海で海水が引く「干潮時」に磯などの岩のすきまにできる水たまりのことをいう。タイドプールには様々な生き物が住んでいる。



夜中の塩が引いた海沿いでは様々な生き物が休息していたり、それらを狙う生き物(我々を含む)が集まったりする。



今回の合宿ではウツボをたべることを目的に潮が引いた瞬間に磯を散策。



調理方法：ハリセンボンとウツボの味噌汁
具材はハリセンボン3匹、ウツボ(できるだけ長めのもの)1匹、みそ(だし入りはNG)

感想：ハリセンボンがうめえ！（ウツボ企画者より）
ハリセンボンは見た目の割に可食部位が少なく、さばくと3分の1程度の大きさになる。その割には非常に美味な出汁をとることができ現地では「アバサー汁」として親しまれるほど

対してウツボはぬめりが強く強靱な皮膚で包丁を跳ね返してくる。小骨も多く生臭さが強いので、きちんとした設備がないと調理が難しい食材であった。

終わりに．．．

先日奄美大島を含む南西諸島が世界遺産に登録されることが決定し、喜ばしい反面現地住民と我々のような生物観察を行う人たちとの衝突が増加しています。無用な争いを回避するためにも採集を禁止する法律、条令を熟知しモラルの範囲内での採集を心掛けることが求められます。またオークションサイト等で出品されている希少種を安易に購入しないことも生き物を守ることにつながります。
コロナ禍解消後の世界でこのような離島採集がまた行えるよう切に願います。